

野田市老人ホーム及び老人デイサービスセンター
指定管理者候補者選定委員会（フォローアップ）会議録概要

開催日時 平成31年2月4日（月）午後3時20分から午後4時まで
開催場所 野田市役所5階 512会議室
出席委員 総務部長（副委員長）、企画財政部長、保健福祉部長、行政管理課長、
管財課長
欠席委員 副市長（委員長）
事務局 高齢者支援課、行政管理課

1 開会

＜副委員長から開会の言葉＞

2 議事

① 複合老人ホーム野田市楽寿園

平成30年度（4月～12月）複合老人ホーム野田市楽寿園業務報告書及び平成31年度複合老人ホーム野田市楽寿園業務計画書の審査について

＜事務局から平成30年度（4月～12月）複合老人ホーム野田市楽寿園業務報告書及び平成31年度複合老人ホーム野田市楽寿園業務計画書について一括して説明＞

＜審議の概要＞

- 業務報告書1ページのサービスの改善及び向上のための方策について、介護相談員制度の具体的な制度内容は何か。
- 介護保険制度において、介護サービス利用者の権利擁護及び介護サービスの質の向上と適正な実施に資するため、介護相談員派遣事業が設けられている。市に登録している10人の介護相談員が分担して、市内の特別養護老人ホーム12施設、介護老人保健施設4施設、グループホーム7施設の合計23施設を、2人又は1人で1施設を2か月に1度訪問し、介護サービスの提供状況及び実態把握を行っている。訪問先では利用者と対話し、疑問や不満等の解消を図っている。また、介護施設側に利用者と話した内容、良い点や改善点などを伝え、介護サービスの質の維持・向上を図っている。
- 業務報告書11ページの収支状況報告書で、養護老人ホームの収入にある本部会計繰入金の内容は何か。
- 特別養護老人ホームの職員に支給される処遇改善手当が、養護老人ホームの職

員に該当しないことから、養護老人ホームの職員に対し、本部会計からの繰入金
を収入として計上し、職員へ同様の手当を支給している。

- 業務報告書 11 ページの収支状況で、収入の特別養護老人ホーム利用料収入が
職員不足により入居者の確保が進まず大幅な収入減となっているが、職員充足の
見込みや確保対策はどうなっているか。
 - 特別養護老人ホームへの一部転換により、年度当初に介護職員を 4 人増員する
予定だったが、採用の時期が遅れ 30 年の 8 月以降に 3 人の介護職員を採用した。
現在、施設が必要と考える配置人数を上回ることができ、定員 29 人を受け入れ
る体制が確保できている。なお、残り 1 人については、引き続き非常勤職員の募
集を行っている。
- 業務報告書 5 ページの人員配置について、30 年度は介護職員を何人予定して
いて、現在は何人いるのか。
 - 30 年度は 11 人を予定しており、現在 10 人が在籍している。残りの 1 人に
ついては、継続して募集している。
- 業務計画書 1 ページの業務計画の特徴あるサービス提供のための方策につい
て、入居者から地域へのアプローチを促進するため、事業所が実施している具体
的な内容は何か。
 - 養護老人ホームの入居者は、要介護度が低い方が入居していることから、施設
内だけの生活にならないよう社会とのつながりを持ってもらうため、施設管理者
が防犯パトロールやエコキャップの回収を企画している。入居者がこれらの企画
に参加することで、社会貢献をしているという充実感を得てもらえるよう努めて
いる。また、特別養護老人ホームの入居者には、東部小学校の児童を施設へ招き、
七夕飾りを実施するなど、地域との交流を図っている。
- 業務報告書と業務計画書の人員配置の備考欄に変則勤務と書いてあるが、例を
挙げると何か。
 - 変則勤務は、夜勤などが組まれる職種になる。勤務時間はその時のシフトによ
り確定する。

<審議の結果>

平成 30 年度(4 月～12 月)複合老人ホーム野田市楽寿園業務報告書及び平成
31 年度複合老人ホーム野田市楽寿園業務計画書について承認

② 野田市岩木小学校老人デイサービスセンター

平成30年度(4月～12月)野田市岩木小学校老人デイサービスセンター業務報告書及び平成31年度野田市岩木小学校老人デイサービスセンター業務計画書の審査について

＜事務局から平成30年度(4月～12月)野田市岩木小学校老人デイサービスセンター業務報告書及び平成31年度野田市岩木小学校老人デイサービスセンター業務計画書について一括して説明＞

＜審議の概要＞

- 業務報告書11ページの施設の利用状況報告について、介護保険の通所介護の利用が10月以降顕著に増加しているが、特別の要因があるのか。
 - 介護保険の通所介護の利用登録者が8月までで32人であったが、9月に4人増えて36人、10月に2人増えて38人、11月に1人増えて39人となった。12月は3人減って36人となったことから、利用者数も減っている。その後、1月は1人増えて37人の登録となっている。このことから、特別な要因はなく、利用登録者数の増加が、利用者数の増加につながっているものと考えている。
- 業務計画書1ページの年度基本方針について、利用の促進のため営業活動を行うということだが、具体的にどのような取組をしているのか。
 - 定期刊行物であるニュースレターというA4サイズ、両面カラー印刷のチラシを法人の在宅サービス事業部で毎月発行している。岩木小学校老人デイサービスセンターの管理者が、居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターへ定期的に訪問し、介護支援専門員と接する機会を増やし、ニュースレターなどを活用して施設のPR活動を行っている。岩木小学校老人デイサービスセンターの特徴や魅力を分かりやすく伝えることで、新規利用者の増加につなげていきたいと考えている。
- ニュースレターのPR活動はどのようにしているのか。
 - 地域包括支援センターやケアプランを作成している介護支援専門員に渡し、活動内容を見ていただきPRに努めている。
- 業務計画書12ページの収支計画について、常勤職員の人件費が下がっているのは、先に説明があった11月に1人退職したことによると思うが、常勤職員について、31年度に募集するのか、それとも募集しても応募がないという見込みでいるのか。
 - 30年度予算では、常勤の介護職員を3名で積算していた。11月に常勤の介

護職員 1 人が退職したため、現在、常勤の介護職員が 2 人となっているが、退職とは関係なく、31 年度の雇用計画では、人件費を抑えるために介護職員を常勤 2 人で積算している。常勤職員を減らした分について、非常勤職員の人件費を予算額で 180 万円ほど増やしている。

- 業務報告書 6 ページでは、生活相談員兼務の者が管理者を入れて 4 人だが、業務計画書の 7 ページでは、生活相談員兼務の者が 3 人になっている。1 人減となっても支障はないのか。
- 生活相談員については、配置基準を満たしているため問題はない。

<審議の結果>

平成 30 年度（4 月～12 月）野田市岩木小学校老人デイサービスセンター業務報告書及び平成 31 年度野田市岩木小学校老人デイサービスセンター業務計画書について承認

3 閉会